

長期戦略:テーマ 「研究ブランドの確立」

提出日 2022年 8月 24日

担当部署

II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	土井研究推進社会連携機構長 (研究推進社会連携機構)	実施計画の 担当部署	研究推進社会連携機構
-----------------------	-------------------------------	---------------	------------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
3-(2)-② 「核となる研究群」を育成し、さらに進化させる仕組みの構築(インスティテュート制度)	2019年度	2024年度	必要なし	不要
内容 ≪核となる研究群(成果を積み上げた「高い実績のある研究」と大学が特定した「戦略的な研究」:単体研究の場合も有り)≫を本学の研究ブランドとして確立させるため、それらの研究へ既存の学内研究費や間接経費等を原資とした資金を投入し、物的・人的支援を強化する仕組み(インスティテュート制度)を構築する。 【先行事例への試行的な資源投入】 構築する仕組みの最適化を図るため、先行事例(「高い実績のある研究」)に試行的に資源投入を行い、課題の抽出を行う。 【資源投入の仕組み構築】 先行事例への試行的な資源投入により抽出した課題を分析し、真に必要な物的・人的等の支援を検討し、最適な資源投入の仕組みを構築する。				
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式		
指標1	【先行事例への試行的な資源投入】課題が抽出できたか	先行事例への試行的な資源投入により課題が抽出されたか否か (2022年度以降 指標2へ統合)		
指標2	【資源投入の仕組み構築】仕組みが構築できたか	長期戦略の指標達成を主眼に置いた資源投入の仕組みが構築されたか否か		
指標3				

目標1<指標1>【先行事例への試行的な資源投入】課題が抽出できたか

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	対象となる先行事例の選定及び該当研究者から要望をヒアリング	要望に応じた資源投入の実施	資源投入実施の結果検証による課題の抽出(資源投入は引き続き実施)	(指標2へ統合)		
実績	先行事例を1件選定し、研究者のヒアリングを行った	先行事例に対し試行実施制度を構築し、運用を行った	課題抽出の結果、制度化に反映させた			

目標2<指標2>【資源投入の仕組み構築】仕組みが構築できたか

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	—	—	指標1により抽出した課題を分析し、最適な資源投入の仕組み案を検討・策定	導入・実施	実施	実施
実績	—	—	課題分析の結果を反映させた仕組みを構築した			

目標3<指標3>

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標						
実績						

2. ロードマップ

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
先行事例への試行的な資源投入	策定段階	対象となる先行事例の選定及び該当研究者からの要望ヒアリング	要望に応じた資源投入の実施	資源投入実施の結果検証による課題の抽出（資源投入は引き続き実施）		
	2023年3月末段階	-	-	-	(指標2へ統合)	
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階					
	2023年3月末段階					
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
資源投入の仕組み構築	策定段階	-	-	指標1により抽出した課題を分析し、最適な資源投入の仕組み案を検討・策定	導入・実施	実施
	2023年3月末段階	-	-	-	-	実施・検証
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階	実施	実施	実施	実施	
	2023年3月末段階	実施・検証	実施・改善	実施・改善	実施・改善	

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】							
非公開							
経費 単位:万円	2019年度承認	2020年度承認	2021年度承認	2022年度承認	2023年度承認	2024年度	左記以降
非公開							
人員・人件費 単位:万円	2019年度承認	2020年度承認	2021年度承認	2022年度承認	2023年度承認	2024年度	左記以降
非公開							

4. 進捗状況・得られた成果

2019年度	【指標1・2】2019年12月20日の学部長会で本件の試行対象として理工学部の長田典子教授の感性価値創造研究プロジェクトを選定し、「インスティテュート」として新たな施策を試行した。具体的には「拠点運営費」という予算を創設し、そこへの資源投下に加え、自身で獲得した資金を研究拠点の運営に使用できる仕組みを考案した。これにより、外部研究プロジェクトの採否により生じる時間的ギャップを埋めることが可能となり、研究グループの生産性向上が期待できるようになった。
2020年度	「感性価値創造研究プロジェクト」の試行実施に伴い、研究力強化策として有用視されていた基盤的経費（拠点運営費）の運用が可能となった。特定研究課題に縛られない経費支出により、研究拠点の強化を継続して実施できる体制が整った。
2021年度	先行実施の課題を踏まえ、インスティテュート制度を構築した。その一つ目のケースとして工学部・長田典子教授を所長とする感性価値創造インスティテュートを試行実施から本稼働へと移行した。
2022年度	
2023年度	
2024年度	

5. 今後の課題及び方向性

2019年度	「対象となる先行事例の選定」に向けて、2019年9月の当機構内の会議に素案を上程する予定。承認が得られた場合、速やかに実行し、課題の抽出と仕組みの検討を進める予定。
2020年度	2019年度に選定したプロジェクトの試行による課題抽出を継続するとともに、次のプロジェクトを育成するための仕組み作りにも着手する。
2021年度	拠点運営費については、執行が進んでいるものの大きな効果が見えにくい状況である。個別ヒアリングを通じてより詳細に支出と拠点強化との関連性を探る必要がある。またその他試行実施3年度間の実績および課題点を踏まえ、2022年度からのインスティテュート制度本格稼働に向けて検討を進めている。
2022年度	感性価値創造インスティテュートについては、その設置目的・計画をアドバイザーボードと共有し、効果的で個性的な研究拠点の形成に向けた具体的な活動を戦略的に推進する必要がある。また、2件目のインスティテュート構築に向けて分野横断的な研究拠点の形成を促し、多様な社会課題に対応し、且つ学外の資源を呼び込む仕組みを検討する必要がある。
2023年度	
2024年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2018年度	試行的な資源投入の実施を認めます。
2019年度	試行的な資源投入の実施を認めます。なお、間接経費より支出してください。
2020年度	試行的な資源投入の実施を認めます。なお、間接経費より支出してください。
2021年度	「核となる研究群」への資源投入の実施を認めます。なお、間接経費より支出してください。
2022年度	「核となる研究群」への資源投入の継続実施を認めます。なお、間接経費より支出してください。
2023年度	

7. Total Review の結果

【フェーズⅠ(2019～2021)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら獲得した資金を研究運営に直接使用できる「拠点運営費」を設けることで、大型プロジェクトにおける研究者の継続性を確保できた。 ・大型プロジェクトから研究ブランドへ確立させるべく、「インスティテュート制度」における支援内容を充実させる必要がある。 	継続 ・ 廃止	<ul style="list-style-type: none"> ・人文社会科学系の大型研究プロジェクトの選定・支援方策の検討

【フェーズⅡ(2022～2024)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	